

全体講評

土井良浩(弘前大学大学院地域社会研究科)

■今年度助成事業の応募・採択状況

今年度助成事業は、2018年3月から「はじめの一步部門」、「まちづくり活動部門」、「10代まちづくり部門」の全3部門の募集を開始し、一步部門5件、活動部門27件(1回目10件、2回目9件、3回目8件)、全32件の応募がありました。10代部門については今年度は応募がありませんでした。応募数は昨年度より若干増え、初めてファンドに助成申請したグループからの応募は13件ありました。その後、3グループ(活動部門2回目2件、3回目1件)から辞退の申し出があり、最終的な申請金額は計943万円となりました。助成額が5万円に固定された一步部門を除けば、ひとグループ平均38.3万円、14グループから40万円以上の助成申請がありました。

6月3日(日)、三茶しゃれなあどにて、第26回公開審査会が開催され、その結果、全29件への助成が決定しました(助成総額は498.8万円、一步部門を除くと1グループ平均20.8万円)。なお、今年度は助成申請額分満額助成が決定したグループはありませんでした。

■採択された企画について

今年度採択された活動企画の特徴として、活動の舞台が特定エリアに集中せず、世田谷全域に分布している点をあげることができます。活動のテーマについて言えば、昨年一昨年に引き続き、子どもを対象とする学び・遊びの場の創出・運営や子育て中の親のサポートにかかわる活動が8件と最も多く見られました。3年連続で多かった理由として、同一グループの継続応募があったことがあげられます。これに次いで、みどりの保全・創出や農、食、エコロジーをテーマとする活動が6件ほどありました。以上の二テーマは過去25年間のファンド助成事業においても多い部類に属するテーマであり、世田谷の市民まちづくりの長期的特徴といえるでしょう。その他のテーマとしては、居場所・拠点づくりを含む活動が5件ほど見られ、また、認知症や介護予防に関連する企画が4件あり、中でも音楽療法を活用するものが3件にのぼりました。

採択されたグループの皆さん、おめでとうございます。全グループが採用されることになりましたが、これは全ての活動企画がまちづくりファンドが促進しようとする「まちづくり」の趣旨に該当すると運営委員の大半が判断した結果であるといえるでしょう。この結果、限られた予算を全体で分かち合う形になった点については、何卒ご理解いただきたくお願い申し上げます。

毎年申し上げていることですが、当初の申請額から減額された部分については、グループのメンバー間で智恵を絞っていただいたり、複数グループ間でお互いの資源を交換したりするなどしてカバーしていただければ幸いです。また、活動する中で困ったことがあったり、他団体とのネットワークを持ちたくなったりしたときは、世田谷トラストまちづくりに相談されることをお勧めします。

皆さまが来年3月まで実り多き活動を展開されることを心より期待しております。

■昨年度助成事業の活動発表会について

公開審査会の2週間前の5月20日(日)、三茶しゃれなあどにて、昨年度で助成が終了したグループ、今年度助成継続を希望されないグループのみなさんにお越しいただき、第25回助成事業の活動発表会を開催しました。各グループからは、一年間の活動成果に加えて、自グループの組織運営上の工夫点についても発表していただきました。これまでの発表会と同様に、グループの皆さんから多くの成果について何うことができ、充実した時間を過ごすことができました。ここに記して感謝申し上げます。

■おわりに

おわりに「キラ星応援コミュニティ部門」についてのお知らせです。

今年度も7月下旬から8月下旬にかけて企画提案を募集します(詳細は7月下旬に三井住友信託銀行のHPで公表します)。二子玉川のカタリストBAにおいて、9月20日(木)に一次審査会、12月2日(日)に本審査会の開催を予定しています。同部門は現在ファンドの他の部門で助成を受けているグループも応募可能ですので、ぜひ応募をご検討ください。

今後も引き続き当ファンドの運営へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

以上